

# 登山報告書

- 目的地：芦別岳
- 期日：2014年2月8日
- 目的：芦別岳日帰りロングアタック
- メンバー
  - L：丸谷聖一 58歳
  - SL：在田一則 72歳
  - M：佐々木尚三 58歳

## ●行程

8日（土）山部駅集合（5：30）＝新道登山口（6：00～6：30）＝冬尾根取付（6：50）＝半面山（11：10）＝雲峰山（12：20）  
＝本峰手前C1575（13：10、シーデポ）＝本峰山頂（14：00～14：10）＝シーデポ地点（14：30）  
＝雲峰山（14：50）＝半面山（15：00）＝冬尾根取付（16：40）＝下山（17：00）

## ●個人装備

冬山装備一式

スキー一式・ビーコン・スコップ・アイゼン・ピッケル・スキーアイゼン・保険証

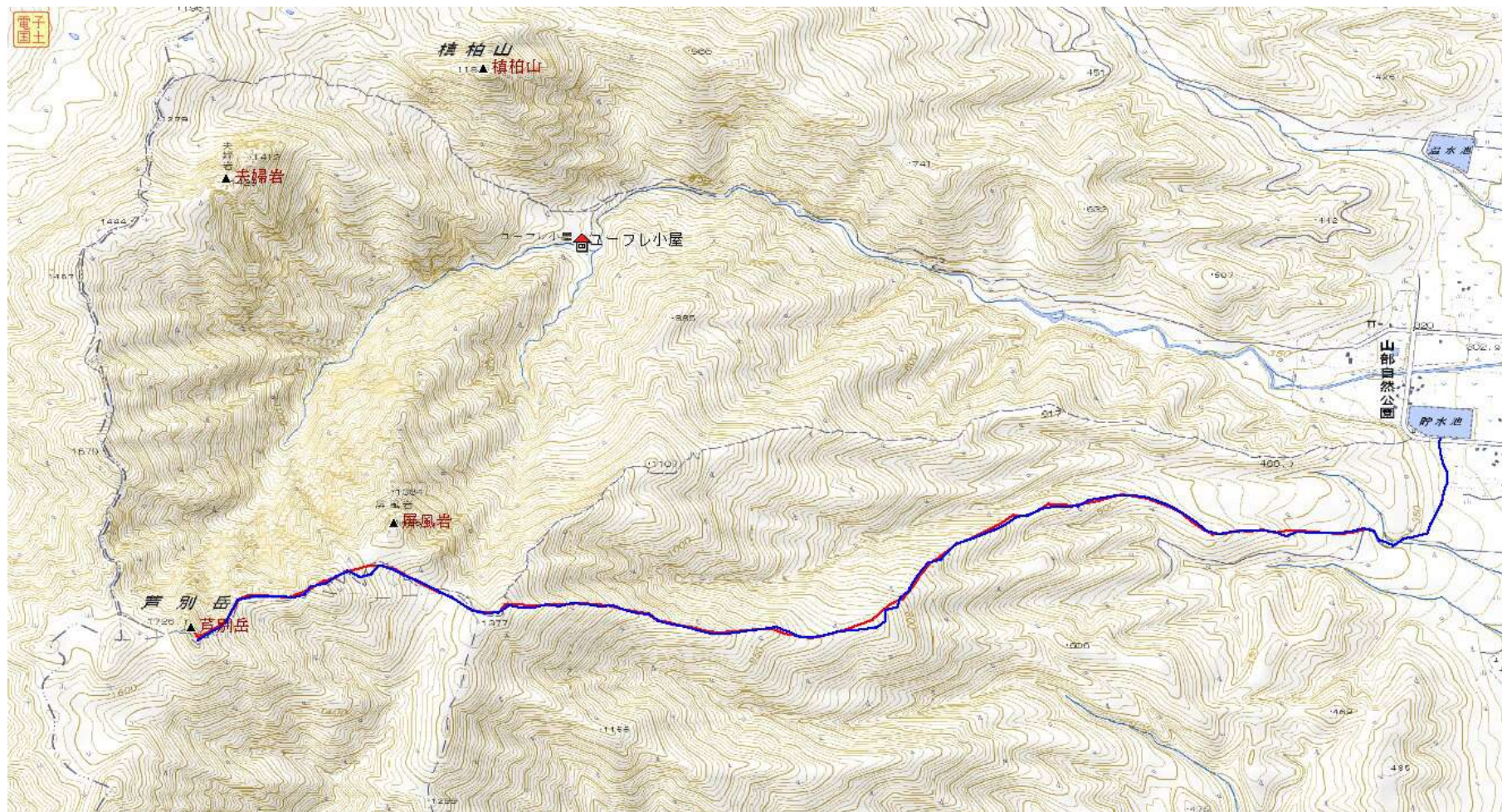
## ●共同装備

ツェルト、

## ●食料 **行動食は多めに用意**

## ●その他 引返時刻は15：00をリミットとする。

# 登山報告書



赤線：登りルート

青線：下りルート

【実際の行動】

# 登山報告書

2月9日(土) 天気：快晴 無風 とにかく寒し

山部駅集合 (5:30) = 新道登山口 (6:00~6:30) = 冬尾根取付 (6:50) = 半面山 (11:10) = 雲峰山 (12:20)  
= 本峰手前 C1575 (13:10、シーデポ) = 本峰山頂 (14:00~14:10) = シーデポ地点 (14:30) = 雲峰山 (14:50)  
= 半面山 (15:00) = 冬尾根取付 (16:40) = 下山 (17:00)

在田さん発案の山行です。当初、1泊2日山行で計画していたが、2日目はどう見ても天気が崩れることが見え見えなので、思いきって日帰りロングアタックに変更。標高差 1400m 一気に登るには、時間・気力・体力の充実が不可欠なのです。

新道登山口の 20 線道路に駐車スペースは無く、除雪車に追われながら道路脇に駐車する。

6:30 出発。21 線道路まで南下して紅葉川渡渉し、冬尾根に取り付く。明瞭な広い尾根に行く。スキーに適したいい尾根だ。半面山手前の c1060m 位から急な尾根となり、つらいキックターンが続く。そうこうしている内に半面山に昼前に着いた。220m/h なら上々のペースである。この調子なら 15 時前には本峰にいけそうだと確信する。

半面山からは大きな雲峰山やその奥に本峰が見える。十勝連峰、旭岳も見渡せる。しっかりエネルギー補給して雲峰に向かう。さすがに 1000m 登ったあとの 200m はつらく、ペースダウン。雲峰上部は固いがスキーでいける。本谷や北尾根のアルプス的山容が姿をあらわし、見ていて飽きない。本峰最後の登り手前の 1575m でシーデポし、アイゼンに履き替える。あと、150m なのだ。

予想通り本峰直下は雪が固くなかった。足首から脛程度のラッセルで、ガシガシ行きたい所だが、皆さん体力の限界が近づきつつある様子。気力で歩いています。

14 時にピークに着いた。3 人で固い握手。天塩、旭岳、十勝連峰、奥にニペソツ、トムラ、北日高、日高ポロシリ、夕張岳、苫小牧の工場煙突群、ピンネシリ、暑寒別岳と 360 度のかすみ一つ無い絶景を堪能し、写真を撮りまくる。HUSV 旗もきちんと記念写真に納まりました。滞在時間は 10 分。そそくさと下山開始。シーデポ地点から雲峰へのわずか 20m の登りが一番つらかった。

雲峰の豪快斜面をぶっ飛ばし、半面からの冬尾根の極上パウダーをゆっくり味わいつつ、日の入り時刻までたっぷり遊んだ充実の一日ではありました。

それにしても、72 歳の在田さんには脱帽です。14 年後の自分にこんなことができるとは到底思えませんから……。

# 登山報告書



半面山から雲峰・本峰を望む



芦別岳に立つ



十勝連峰を望む



本峰からポイントナシベツ遠く夕張岳と苫小牧



雲峰に登る在田さん



本峰は近い